

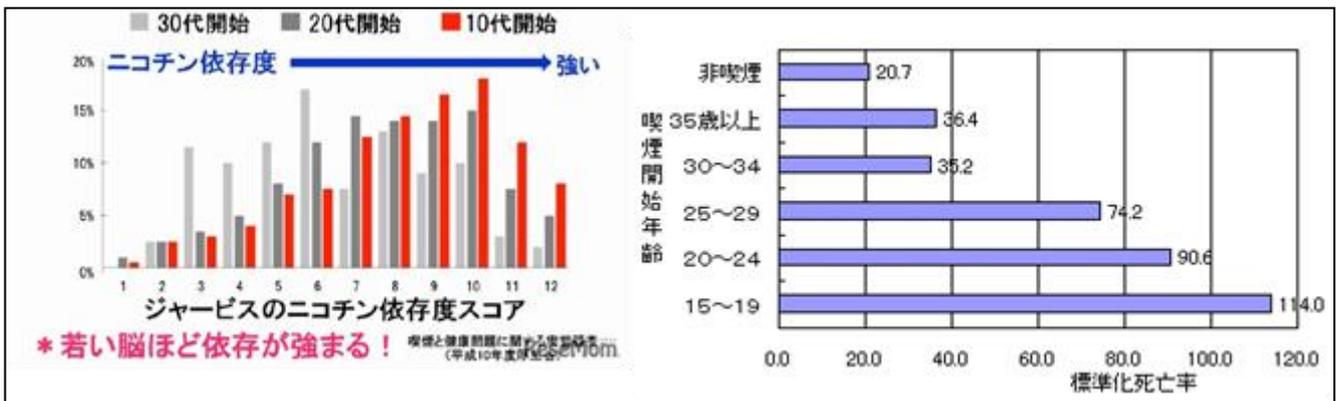
# 《健康だより》喫煙・受動喫煙の健康被害

環境保健部 平安山 智子

成人年齢が18歳に引き下げられたのに、喫煙できない年齢が20歳未満のまま残されたのは、喫煙が若者の健康を蝕む医学的エビデンスがあるからです。本人の喫煙だけでなく、受動喫煙も若者の健康に害を及ぼすことが明らかとなっています。そこで、日々の生活のなかでの、喫煙の危険性や受動喫煙の影響について考えてみましょう。

## Q なぜ若いうちからたばこを吸ってはいけないの？

- ☑ 10代での喫煙はニコチン依存症になりやすく、たばこを止めることが難しくなる（左図参照）。
- ☑ たばこを吸い始めた時期が早い人ほど、肺がんや膀胱がんによる死亡率が上がる（右図参照）。また、喫煙を中止してもその後20年間は、発がん発症率が非喫煙者よりも高くなる。
- ☑ 基礎疾患がなくとも、喫煙者は新型コロナウイルス感染症にかかると重症化リスクが高くなる。
- ☑ 女性の喫煙が妊娠出産に及ぼす影響として、早産・低出生体重・胎児発育遅延の発生率が高くなる。

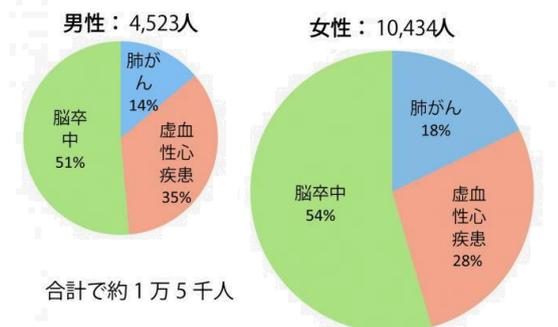


## Q 受動喫煙（副流煙）はどれほど危険なの？

たばこの煙には、本人が吸う「主流煙」、吐き出された「呼出煙」、火をつけたたばこの先端から立ちのぼる「副流煙」があります。副流煙や呼出煙を吸い込むことも体に悪い影響があります。これを「受動喫煙」といいます。

特に、(フィルターで濾過されない) 副流煙には、主流煙以上にたくさんの有害物質が含まれます。(副流煙には、主流煙よりも、ニコチンが2.8倍、タールが3.4倍、一酸化炭素が4.7倍も含まれる)

副流煙や呼出煙を吸うと、その人自身はたばこを吸っていないなくても、肺がんや脳、血管の病気で死亡する確率が高くなります(下図)。



受動喫煙による年間死亡数推計値 (厚生労働省研究班推計)

八洲学園大学国際高等学校は、健康増進法で指定される特定施設です。20歳以上であっても、学校敷地内は全面禁煙です。

また、「宿舍管理規定」により、喫煙(加熱式タバコ/電子タバコを含む)・飲酒は厳禁としています。飲酒・喫煙が判明した場合は、スクーリングの出席等が無効になり即刻帰宅処分とすると定められています。